

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	火災現場の屋内廊下で待機中、濃煙につつまれフラッシュオーバーが発生しそうになった事案
3. 体験した事例の中心的要素	高層建物火災出動時に、他隊が出火室に屋内進入しており、屋内廊下でホース整理及び交代要員として待機していたところ、隣室に延焼し、隣室から屋内廊下へ濃煙及び熱気が流出し、待機中の隊員付近の天井を炎が走った。直ちに屋内進入中の隊員を退出させ、退避しようとしたが、屋内はほぼ火勢制圧していたため、屋内進入中の隊員は屋内に留まり、ホースのみが引き出した。前進指揮者の指示で天井を放水したため、熱気は収まりフラッシュオーバーは発生しなかった。
4. 体験した事例の原因・理由	・過去に屋内廊下に延焼した事案に出動した経験がなかった。 ・現着時、屋内廊下は異常がなくクリアゾーンであったため、延焼する危険性を予測していなかった。 ・濃煙発生後も、耐火造の建物の屋内廊下に延焼することを予測できなかった。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。(大丈夫だろうと思った。)
------------------	------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	令和3年4月23日 午後2時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋内:10階の屋内廊下
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	死亡していた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	火傷・熱傷
7. 事例体験時の活動	火災現場活動中期、[耐火造建物]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他:ホース整理及び交代要員のための待機
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

○当事者A	年齢[36]歳、勤続年数[14]年、現場経験年数[9] 年、階級[消防士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[消防司令補] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A・B・Cが	高層火災に出動した	
経過2	当事者A・B・Cが	ホース整理及び交代要員のための屋内廊下に待機した	
経過3	当事者A・B・Cが	延焼した隣室からの濃煙により、廊下において視界不良になった	
経過4	当事者A・B・Cが	面体を着装し、屋内廊下で待機を続けた	
経過5	当事者A・Bが	熱気を感じ、天井を見ると炎が走っていた	
経過6	当事者A・B・Cが	屋内進入中のホースを引くと、進入中の隊員は出てこずに、ホースのみが出てきた	
経過7	当事者Bが	天井へ放水し消火した	
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

● ●

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合:ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

集中力、注意力があった 資機材の機能が適切だった 資機材の操作がうまくいった 個人装備が適切だった 他隊(員)から適切な注意を受けた たまたま、事故にならなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--

